



豊中市教育センター  
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600  
TEL 06-6844-5290  
FAX 06-6840-8127

平成20年(2008年)1月25日第29号

## 百年前と百年後

平成20年(2008年)があげました。私も含めて、多くの方が「今年こそは」と心に誓うことがあり、「何かいいことはないかな」と希望と期待の入り混じった心境にあるのではないのでしょうか。21世紀もすでに8年目、平成になって20年目を迎えます。「歳月、人を待たず」という言葉のとおり、日々の営みの間に、時間はあっという間に過ぎていってしまいます。100年ぐらゐすぐに経ってしまいそうです。



ところで、今から100年前というと、明治41年(1908年)にあたります。この年の4月、小学校令が改正されます。これにより、それまでは4年間であった義務教育が小学校の6カ年に延長されました。7月、第一次西園寺公望内閣から第二次桂太郎内閣への政権交代が起こります。10月にはヨーロッパの火薬庫といわれたバルカン半島のボスニア・ヘルツェゴビナをオーストリア・ハンガリー帝国が併合し、世界大戦への導火線についに火がつけられます。同じ10月には、アメリカ合衆国でオートメーションシステムにより生産された大衆車、T型フォードが発売されます。前年に設立された箕面有馬電気軌道が、大阪・宝塚間の本線、及び石橋・箕面間の支線の軌道敷設の許可を得て工事を本格化させるのも、この年の10月のことです。

それから100年、バルカン問題は世界中を巻き込んだ第一次世界大戦の引き金となり、さらに第二次世界大戦へとつながり、多くの人々に災厄をもたらします。フォード・オートメーションシステムはあらゆる産業に取り入れられ、大量生産された工業製品は私たちの暮らしの隅々まで入り込んでいます。身近なところでは、箕面有馬電気軌道は後に阪急電鉄と名を改めるのですが、その開業は、田園地帯であった豊中を日本有数の近郊住宅都市へと変貌させました。

よきにつけ、悪しきにつけ、私たちの生活はわずか100年で激変しました。これからの100年でも、世の中はまた大きく変わっていくことでしょう。科学技術は日進月歩の勢いで発達し、社会の仕組みも変化し続けるに違いありません。100年どころか10年先、ひょっとすると来年には世界がすっかり変わっているかも知れません。100年先私たちの暮らしはどうなっているのでしょうか。

100年の間に、暮らしは大きく変わりましたが、人間はどうなのでしょう。人がもつ知識の量は大きく増え、考え方は多少変わったかもしれませんが、でも、家族を思い、幸せを願う人間の根本は大きく変わっていないような気がします。「今年こそは」、「何かいいことはないかな」そんな願いの積み重ねが100年後の未来を築いていくに違いありません。そんな気がします。(尾崎)

## 平成19年度（2007年度）研究協力員報告会

1月7日（月）、豊中市教育センターを会場に豊中市研究協力員報告会が実施されました。

当日は、99名の参加者で、会場は満員となりました。

基調講演では、奈良教育大学 准教授 小柳和喜雄先生に『子どもが自信をもつ授業』をどのように構築していくか』をテーマにお話いただきました。子どもが自信をもつのは、「誉められたとき」「認められたとき」「何かできたとき」「見通しがもてたとき」などであること。そのためには、①子どもとの信頼関係の構築 ②ゴールの設定と前提条件の明確化 ③授業の課題、子どもの課題を見つめること ④意識的に学び方を教える取り組みを行うことが「子どもに自信をもたせる授業」を進めていく上でのポイントとなることなどを、諸外国の事例を交え、わかりやすくお話いただきました。



分科会では、8つの教科・領域の研究員の皆さんが、6月以来取り組んでこられた、授業研究や実践の成果を報告されました。児童・生徒の生き生きと学ぶ姿や指導案、実践された教材など参加者は、多くのことを得ることができたのではないのでしょうか。指導案など、研究の成果は、教育センターで所蔵しています。今後も、多くの先生方が研究協力員に加わっていただき、研究がさらに進めばと考えています。

分科会では、8つの教科・領域の研究員の皆さんが、6月以来取り組んでこられた、授業研究や実践の成果を報告されました。児童・生徒の生き生きと学ぶ姿や指導案、実践された教材など参加者は、多くのことを得ることができたのではないのでしょうか。指導案など、研究の成果は、教育センターで所蔵しています。今後も、多くの先生方が研究協力員に加わっていただき、研究がさらに進めばと考えています。

### 大阪府教育研究所連盟

## 40周年記念大会（第17回研究発表大会）

日時 2月12日（火） 14時00分～17時15分

会場 ホテル「アウリーナおおさか」

内容 ○部会報告 教育相談部会

「子どもへの支援へのあり方」

共同研究部会

「子どもたちの未来を豊かにする教育について」

～キャリア教育推進の視点から～

○記念講演

「今後の英語教育のあり方～授業での実践を通して～」

講師 関西大学 教授 田尻 悟郎



田尻悟郎先生は、公立中学校の英語科教諭を経て、現在関西大学外国語教育研究機構の教授を勤めておられます。日本の英語教育界の最高の栄誉である「パーマー賞」を平成13年（2001年）に受賞されています。また、平成16年（2004年）には、ニューズウィーク誌「世界のカリスマ英語教師100人」に選ばれています。

※ 申し込み締め切りは過ぎていますが、まだ、余裕がありますので、研究・研修係までお問い合わせください。

## サイエンスカフェ 1月26日(土)10:00~12:00(教育センター6階)

飲み物を手に、科学者や研究者と参加した人がざっくばらんに会話をすることで、最先端の情報に触れ、科学を身近に感じてもらおうと始まったサイエンスカフェですが、今回は、「エルニーニョと衛星観測」をテーマに、大阪大学大学院教授河崎善一郎教授にお話をさせていただきます。

先生は、「雷放電物理」や「大気電気学」を専門に研究しておられ、地上観測や衛星観測を実施し、世界中を飛び廻っておられます。当日参加可。

## サイエンスクラブフェスティバル

2月3日(日)10:00~16:00(教育センター6階)

サイエンスクラブフェスティバルは、小・中学校や高校、大学のサイエンス系のクラブ、サークル等が、発表や展示・科学工作などを出展する、年に一度の行事です。

今年は、「葉脈標本のしおり」(大池小学校土曜スクール)、「空気ロケット」他(豊中市立第三中学校理科部)、「人工いくらを体験しよう」他(豊中市立第四中学校自然科学クラブ)、「NHKロボコン全国大会出場ロボットの展示・実演」(大阪府立高専)、「バイオで作る不思議な植物」(府立園芸高校バイオ研究部)、「あたためるだけで動くエンジン」(大阪大学サイエンスクラブ)など多数出展されます。



昨年の親子理科講座の様子

同時に開催される親子理科講座「料理の生物学」は、講師に大阪大学大学院教授小倉明彦先生をお迎えして、ジュースを材料にして味覚について楽しみながら科学に親しみたいと思います。

親子理科講座は、申し込みを終了しておりますが、サイエンスクラブフェスティバルは、参加自由(無料)となっておりますので、興味がありましたらぜひお越しください。

## 校内LANの整備に向けて

豊中市内小中学校で整備を進めている、「校内LAN整備事業」は、今年度で約半数の小中学校の整備が整いました。今年度末には、残りの小中学校にノートパソコンが先行配備される予定になっています。

校内LANの整備により、教室からインターネットに接続できるようになり、プロジェクターと組み合わせれば、リアルタイムに情報を教材として提示することができます。また、ノートパソコンとプロジェクターは簡単につなぐこともでき、プロジェクターに、複数台のPCの画面を映しスクリーンで見ることができます。ノートパソコンを班に1台用意し、各班が調べたことを発表することにも利用ができます。

来年度、小学校10校、中学校5校に校内LANが導入されるよう、現在、予算化を図っています。

校内LANの活用で、授業の幅が広がり、「わかる授業」がさらに発展することを願っています。

また、今年度ノートパソコンの配備に伴い、セキュリティーサーバも導入されます。個人情報パソコン本体に保存せず、サーバに保存することで、個人情報を守ろうとするものです。使用方法については、各校ごとに導入研修を予定しています。

## 風、届けませんか？

昨年暮れのよく晴れた朝、フリースを一枚はおって、家中の窓を開け放ってみました。ぴりっと冷たい風が吹き込むと、こもった空気が自然に追い出され、新鮮な空気が部屋のすみずみに行き渡ります。大掃除もそこそこの片付かない我が家が清められるような、目に見えない風のパワーを意識するひとときでした。

さて、私が教育相談の中で常々意識していることの一つに、「風を入れる」ということがあります。我が子の不登校に悩む保護者は、子どもがいつ登校できるのかという不安とともに、子どもと二人で家に居ること自体の閉塞感に苛まれていることがしばしばです。子どもについ手を上げてしまう、叱るとエスカレートしてしまうという保護者も、形こそ違えど同様の、息の詰まるような切迫感に圧倒されていることが少なくありません。そんな状況にあって、相談のために家から出て一息つけば、それは保護者にとって「心の換気」になりますし、相談後の保護者が少しすっきりした新しい気分を家に持ち帰れば、それは「家庭の換気」にもつながります。実際、保護者が来談するだけで子どもの不登校が改善に向かうケースは少なくありません。風が入り、保護者が元気を取り戻す、家の中が明るくなる、といったことが、家にこもりっきりの子どもの心を徐々に動かしていくようなのです。

そこで、私が保護者にお会いする際には、こうした「換気」がスムーズに行われるよう、その方が相談を終えて家に帰る姿を常にゴールとしてイメージするようにしています。なぜなら、「換気」の効果は、保護者がどんな空気をまとって家庭に帰るのか、帰りを待つ子どもにどんな声をかけるのかに表れるからです。どんな苦しみか語られ、涙が流されたとしても、帰り際には私から、季節の花やなにげない日常のことを話題にします。それが心に入る風となり、ちょっと回り道して花でも見て帰ろうか、といった余裕を生むことを願いつつ。

このような「換気」は特別なことではなく、先生方が不登校の子どもに電話をかける、家庭訪問をするといった時などにも無意識に行われていることでしょう。子どもに会えない、状況が動かないという時は、先生の電話や訪問がどんな空気をその家庭にもたらしているか、イメージしてみることをお勧めします。たとえ子どもに会えなくても、たった5分の訪問でも、先生と話すことで保護者が笑顔になる、先生の訪問に飼い犬がしっぽを振るといったことが重なれば、その明るい気配は必ず子どもに届き、子どもの心をよぎる風になります。

少しずつでも、新しい風を届けませんか？（森下）

